

読書でビジネス力をアップする(第22回)

会社に「残れる人」と「捨てられる人」の習慣

2017.03.02



会社に「残れる人」と「捨てられる人」の習慣

海老一宏 著
明日香出版社

仕事術の本です。会社の期待に応え、成果を上げながら、自らも成長する人材をめざします。それができれば、今の会社で出世することができ、他社からも声がかかるようになります。

反対に「会社の足を引っ張る社員」と思われてしまうと、出世は遅れ、処遇も改善しません。それどころか、どこかで「戦力外通告」をされ、会社から放り出されてしまうかもしれません。そうならないために、社員は「何を考え、何をすればいいのか」「どんな風に仕事や会社と関わればいいのか」――その辺りについて人材のプロが教えてくれます。

意外なことに「仕事ができる」と「使えない」人の差は、ほんのわずかということです。違いは、ちょっとした気遣いと努力、行動で決まると著者は言います。そのカギを握るのが、日々の習慣です。これを見直すだけで「会社に必要な人材」に変わることができます。それを、分かりやすく教えるのが本書です。

構成は「会社で必要とされる人」と「そうでない人」を対比して、何をすべきか、どう考えるべきかを、50の項目としてアドバイスしてくれます。人は、意識を変えるだけで与える印象を変えることができます。今は「足手まとい」でも、本人の意識さえ変われば、すぐに会社に不可欠な人材になることができます。

「今ひとつ、会社から評価されていない」と感じる方、「もっと、会社から評価されたい」と思う方はもちろん、自社の人材に不満を感じている経営者や幹部社員にも、一読をお勧めします。

社長からの評価を想定した解説トピックの数々… 続きを読む